

住宅火災による被害をなくそう！

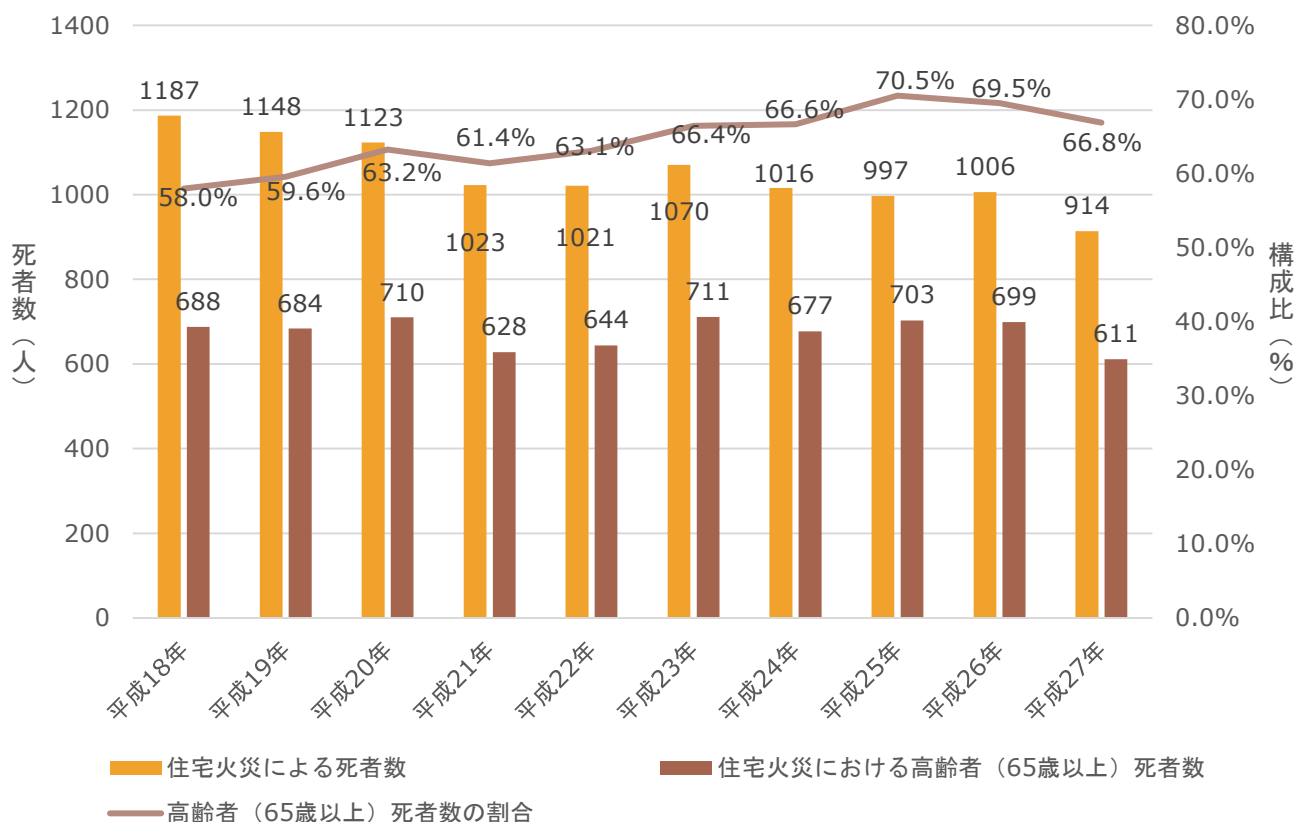
平成 27 年住宅火災による

死者数 914 人！高齢者 66.8%！



平成 27 年全国の建物における死者 1,220 人のうち住宅火災における死者（放火自殺者等を除く。）は 914 人で、このうち 65 歳以上の高齢者は 611 人でした。死者の半数以上の 477 人が逃げ遅れたことにより亡くなっていることから、住宅火災による死者を防ぐには、早期発見、早期避難、初期消火が重要です。

住宅火災における死者数の推移（放火自殺者等を除く。）



住宅火災による被害をなくすための対策

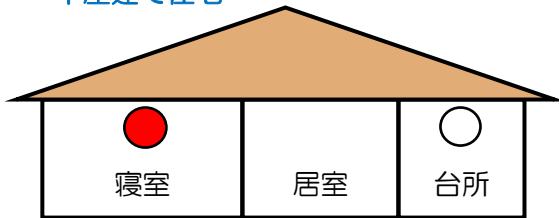


1 早期発見、早期避難するために住宅用火災警報器を設置

住宅用火災警報器は、平成 16 年の消防法改正で設置が義務付けられ、新築住宅については平成 18 年 6 月 1 日から、既存住宅についても飯田広域消防管内では平成 21 年 6 月 1 日から設置が義務化されています。

(1) 住宅用火災警報器の設置場所

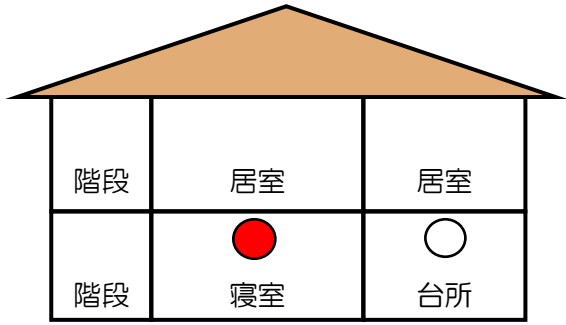
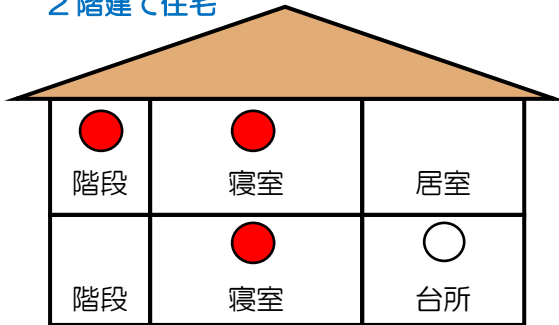
平屋建て住宅



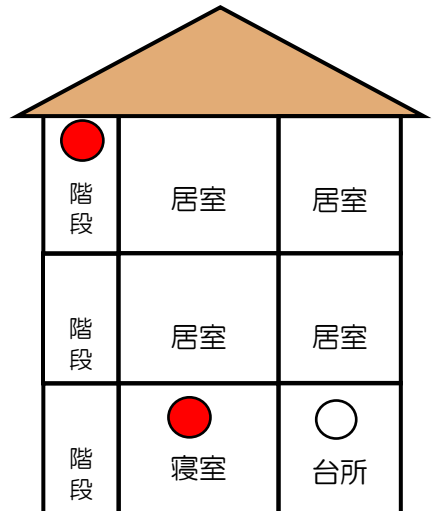
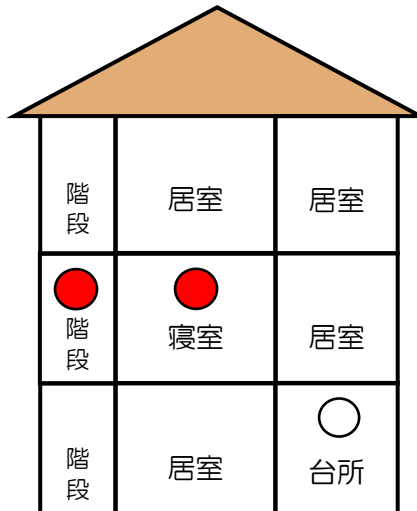
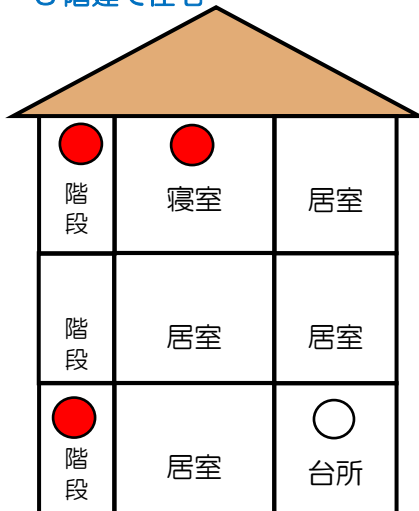
- 義務設置（煙感知器）
- 設置推奨（熱感知器）



2 階建て住宅

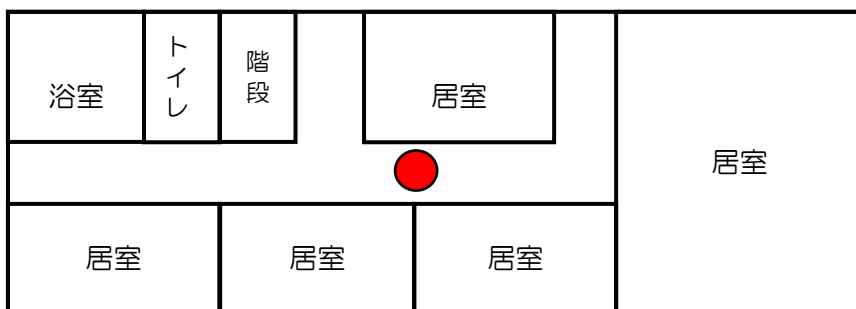


3 階建て住宅



- ① 寝室（主寝室、子供部屋等の天井又は壁）
- ② 階段（寝室がある階段踊り場の天井又は壁）
- ③ 台所には設置を推奨します

廊下

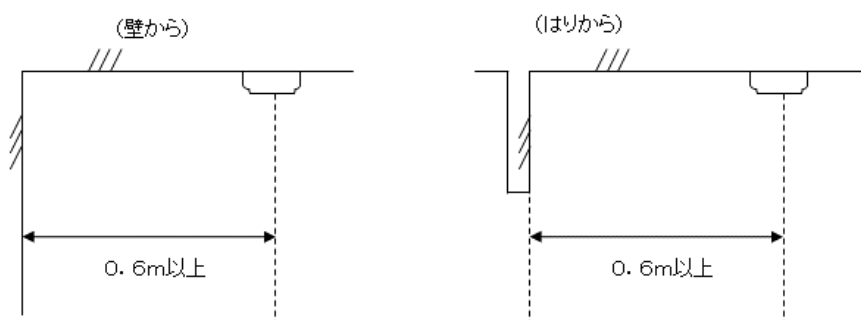


警報器を設置する必要がなかった階（寝室がなかった階）でも 7 m^2 （4畳半）以上の居室が5以上ある場合の廊下（廊下がない場合は階段）に設置します。

(2) 設置位置

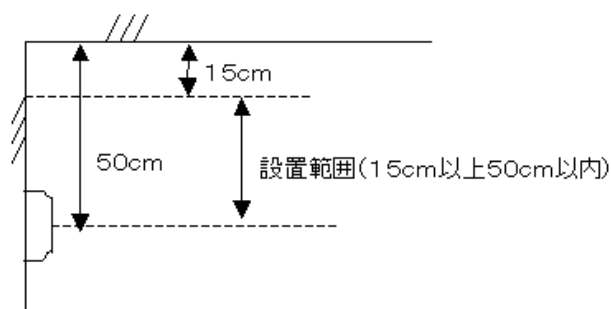
<天井に設置する場合の設置位置>

※壁又ははりから 0.6 m 以上離れた位置に設置する



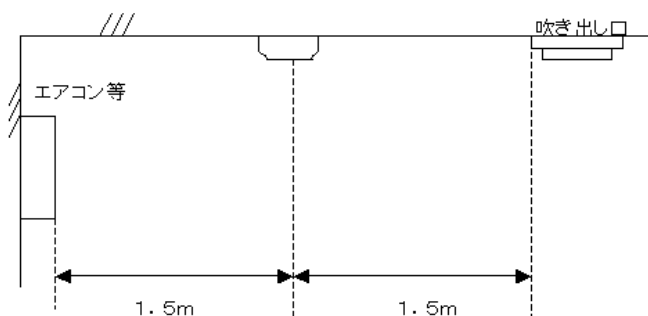
<壁に設置する場合の設置位置>

※天井から 15 cm 以上 50 cm 以内の位置に設置する



<換気口やエアコン等の空気吹き出し口がある場合の設置位置>

※ 1.5 m 以上離れた位置に設置する

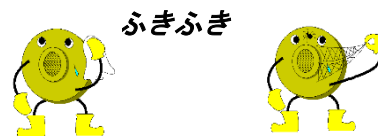


(3) 設置後は定期的に点検、お手入れをしましょう。



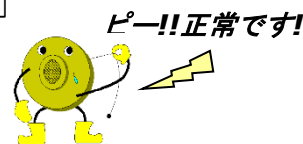
■お手入れ

住宅用火災警報器が汚れてきたら布等でふき取り、常にきれいな状態にしましょう。



■作動点検

住宅用火災警報器の「ボタンを押す」または「引きひもを引く」ことで警報音の確認をしましょう。(年に1回は点検を！)



■交換時期

住宅用火災警報器の寿命は設置から概ね10年です。

乾電池タイプの電池交換時期も概ね10年なので、併せて住宅用火災警報器本体の交換をお奨めします。

■廃棄方法

住宅用火災警報器を廃棄する場合は、本体から電池を取り外して、市町村の定める廃棄方法を確認して、正しく廃棄してください。



住宅用火災警報器についての詳しい内容は一般社団法人日本火災報知機工業会のホームページでご確認ください。

一般社団法人日本火災報知機工業会ホームページ

<http://www.kaho.or.jp/>

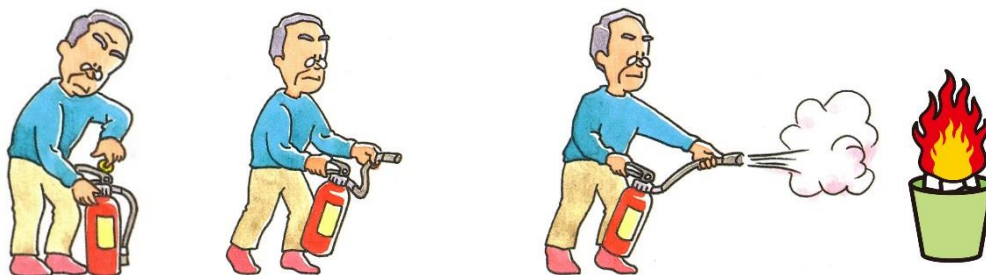


2 初期消火のため住宅用消火器等を備えましょう。

早期発見した火災を消火するためには、住宅用消火器等が有効です。

住宅用消火器等を設置して、日頃から取り扱いを確認しておきましょう。

<消火器の取り扱い>



- ① 消火器を燃えている場所の手前まで運びピンを抜く。
- ② ノズルを火元に向ける。
- ③ レバーを握り火元に薬剤を放射する。

消火器についての詳しい内容は一般社団法人日本消火器工業会のホームページでご確認ください。

一般社団法人日本消火器工業会ホームページ

<http://www.jfema.or.jp/>



3 延焼を抑制するため、防炎品を使用しましょう。

火災発生の際、カーテンや寝具類などに燃え移ると避難や初期消火が困難になりますが、燃えにくい防炎品を使用することで、延焼拡大を抑制することができます。



防炎物品

カーテン、じゅうたん等

防炎製品

衣類、寝具类等

防炎品についての詳しい内容は公益財団法人日本防炎協会のホームページでご確認ください。
公益財団法人日本防炎協会ホームページ
<http://www.jfra.or.jp/>



火災による被害をなくす対策をし
安心・安全な生活を送りましょう！

